

(電子メール施行)
農技第1160号
平成25年6月26日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察 注意報 第1号を下記のとおり発表します。

イネ縞葉枯病の発生は、近年増加傾向にあります。ヒメトビウンカの保毒虫率は、昨年より増加しており、西播磨地域で特に高く、例年イネ縞葉枯病の発生が多い地域では、防除の徹底をご指導願います。

平成25年度 病害虫発生予察注意報第1号

- 1 病害虫名： **イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）**
- 2 作物： **イネ**
- 3 発生地域： **西播磨**
- 4 発生量： **多い**
- 5 発生時期： **7月中旬～8月下旬**

6 注意報発表の根拠

- (1) イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの発生状況は、5月中旬のコムギ巡回調査では越冬世代成虫が中心で発育は遅れていたが、発生ほ場率は83.3%で平年(59.6%)より高い状態であった。コムギほ場における第1世代成虫の密度は5月下旬から急激に増加し、6月上旬に最盛期を迎えた(図1)。同時期に実施したすくい取り調査によるヒメトビウンカ密度は平均66.6頭/10回振であり、昨年の11.8頭を上回っている。
- (2) ヒメトビウンカのウイルス保毒虫率は近年増加傾向にあり、今年度は平均で3.2%(昨年2.2%)であった(図2)。保毒虫率の高い地点は佐用町、上郡町等西播磨地域に偏っており、保毒虫率が10%を超える地点がみられている(表1)。その他の地域においても、昨年と比べて保毒虫率の増加がみられている。
- (3) 大阪管区気象台が平成25年6月8日に発表した1か月予報では、向こう1か月の気温と降水量は平年並みとされており、コムギの収穫後水田に移動したヒメトビウンカの繁殖が抑制される要因は特に見あたらず、保毒虫率の高い西播磨地域ではイネ縞葉枯病が多発生すると考えられる。

7 防除上の留意点

- (1) 保毒虫率の高い地域や昨年度発病が多く見られた地域では、本田での薬剤防除を実施する。育苗期後半～田植時に薬剤施用をしていない場合は特に注意する。保毒虫率が低い地域であっても、ヒメトビウンカの発生が多いと本病が多発することがあるので注意すること。
- (2) イネ縞葉枯病の感染機会は、ヒメトビウンカの保毒虫率と発生量の双方が関係する。要防除の目安は保毒虫率が1%の条件で、①6月中～下旬の第1世代成虫3頭/株以上、②7月上旬の第1世代成虫+第2世代幼虫合計30頭/株以上である。保毒虫率が10%の場合は上記数値の10分の1を目安とする。また保毒虫率にかかわらず、7月中～下旬の発病株率が1%以上であれば要防除である。
- (3) 直接の減収につながる出穂期の発病を防ぐためには、遅くとも出穂期の1か月前までに薬剤防除を実施すること。防除薬剤については、「兵庫県農薬情報システム(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)」等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

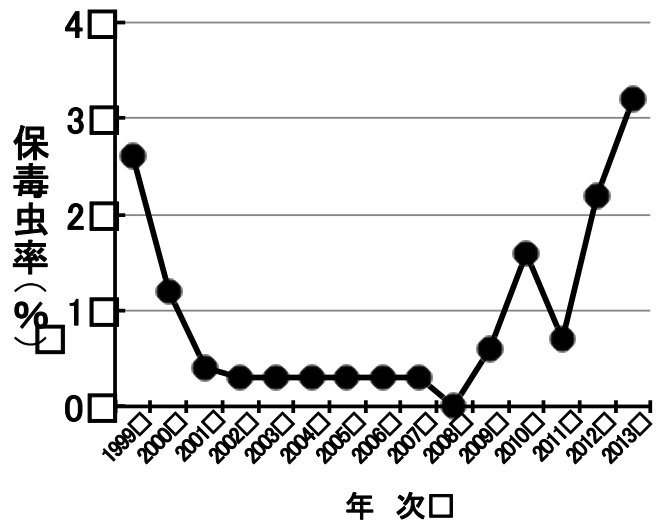
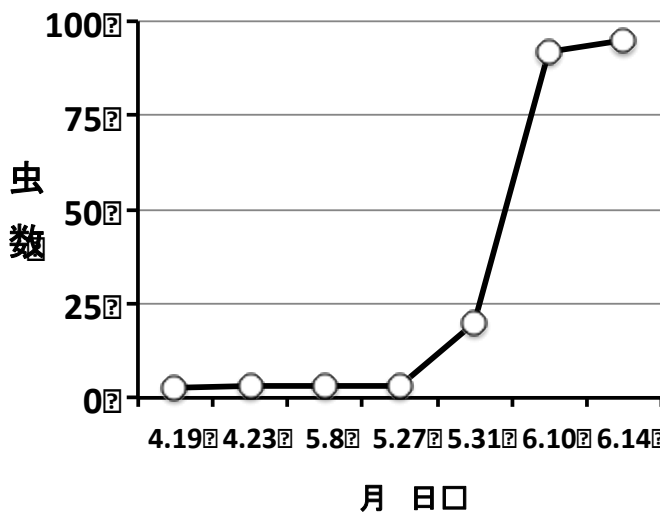


図1 コムギほ場におけるヒメトビウンカの密度推移 (2013年加西市 すくい取り10回振)

図2 ヒメトビウンカ第1世代虫の保毒虫率年次推移

表1 ヒメトビウンカ (第1世代虫) のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

地 点	平成25年*	平成24年	平成23年
佐用町	10.0 %	7.0 %	1.3 %
上郡町 1	15.0	11.0	3.0
上郡町 2	6.0	15.0	-
宍粟市山崎町	2.0	1.0	1.3
たつの市新宮町	0.0	6.0	-
神河町	0.0	0.0	0.0
加古川市志方町	1.0	0.0	0.0
加西市別府町	1.0	0.0	0.0
多可町中区	1.0	2.4	0.0
西脇市黒田庄町	0.0	0.0	0.0
加東市社町	1.0	1.0	0.7
加東市滝野町	1.0	0.0	0.7

*各地点 100 個体をラテックス凝集反応により検定